

勉学の旗

(高須中学校だより)

平成30年6月15日号 高須中学校長 山口和久



修学旅行の成果を今後の学校生活に活かす

6月3日～5日の2泊3日、奈良・京都方面へ修学旅行に行ってきました。

奈良・京都はとても暑かったです。特に2日目は、東大寺・興福寺・京都班別研修と、1回も貸切バスに乗ることなく、徒歩と公共の交通機関だけでの移動でした。でも、3年生の皆さんは本当に元気よく最後のゴールであるホテルを目指すことができました。

修学旅行の引率をかなりの回数行っている私ですが、今回「初めて」ということがいくつかありました。まず、宿泊地から歩いて、奈良公園(東大寺)に入ったことです。1泊目の旅館がすぐ近くだったので、朝1番に歩いて奈良公園に入りました。こんなに観光客が少なく、ゆっくり見て回ることができた奈良公園は初めてでした。しかも、奈良公園専属、とても案内が上手なことで有名な4名のガイドさんにお世話になったことも、めったにあることではありませんでした。

次に、奈良から京都への移動で、初めて近鉄特急に乗りました。40分足らずの乗車でしたが、とても快適で、その間昼食(弁当)も食べました。列車の中、短時間、しかも立派なお弁当でしたので、生徒の皆さんが食べられるかどうか心配しましたが、私の知る範囲では、とてもよく食べていました。食事については、旅行全体を通じて、生徒の皆さんがうまく工夫して、よく食べている印象を受けました。ふつう、ある種類のものをもものすごく残してしまったり、逆に調子に乗って食べ過ぎて夜おなかが痛くなる人が出たりするのですが、そういうことはほとんどありませんでした。

何とか無事に、そして3年生に様々な思い出を残し、修学旅行が終わりました。今回の旅行に関わってくださったすべての方々に感謝いたします。

以下、生徒の感想文の一部を掲載します。



〔金閣をじっくり眺める3年生〕

- 班別研修はとにかく歩きました。特に駅から清水寺に行く時、上り坂ばかりだったので大変疲れました。でもそれをクリアしたら清水寺から望む京都の風景はとても素晴らしかったです。
- 京都の人たちが、古くからの文化を大切に守っている思いがよくわかりました。
- 私は日本の文化や風景が大好きなので、修学旅行が楽しみでなりません。東大寺は重厚感のあるどっしりした構えに、飾り気のないシンプルな色合いがとてもかっこよかったです。
- 普段はわからないことがあっても、誰にも聞かずに自分でどうにかしようとしてしまうけれど、この修学旅行では目的地の方向が分からなかったとき、駅員さんに聞いて解決することができました。自分から聞くことができたので、これからも困ったことがあったら誰かに頼ることもしていきたいと思いました。
- この修学旅行では、友達の大切さ、親や先生方への感謝の気持ちを、改めて感じることでとても良かったと思いました。
- この修学旅行で私が得たものは、新しい友達、仲間との思い出、そして自立した心です。

修学旅行での3年生の皆さんの言動やこれらの感想文を見ながら、改めて、今現在の一人一人の成長の度合いの差を感じました。そのような中で、個人として、また、集団としての高まりを見せている3年生が、今後さらなる成長を見せ、どのように自分の進路を自分の手で切り拓き、中学校を卒業していくのか、とても楽しみです。

<裏面へ>

通知表の教科の評価は、どうやってつけるの？

教科の評価は「観点別評価」が基本になります。(通知表を見ると、「関心・意欲・態度」などの観点が記載されています。)

各教科4～6観点ありますので、各観点それぞれ十分満足できる状況と判断されるものは「A」を、おおむね満足できる状況と判断されるものであれば「B」を、努力を要する状況と判断されるものであれば「C」がつきます。このように、まず観点別評価を行い、それを総合して評価したものが評定(5・4・3・2・1)です。

私は社会科の教員ですが、教員になった30数年前は、評価の対象のほとんどは「定期考査」の点数でした。

今は、学力の考え方や中学生に求められる力が大きく変わり、評価の対象は「授業中の学ぼうとする姿」や「授業中の、考え、判断し、表現する様子」「授業で学んだことを活用し、様々な形で表現する様子」の割合が大きくなっています。私が授業をし、最後の教科の評価をした10年ちょっと前も、評価の仕方は今と同じやり方でしたが、私の場合、評価の対象の中に占める「定期考査」の点数の割合は7割程度でした。(この割合は、教科の特性によって違います。もっと定期考査の割合が低い教科もありました。)つまり、たとえ定期考査で満点を取っても、他の評価の対象になるものが全く評価できないものであれば、観点別評価で「C」がつく観点があり、評定は「5」にならず、場合によってはかなり低い評定になることもあります。そして、今後、この評価対象全体の中で定期考査の点数が占める割合は、低くなることはあっても、高くなることはないのではないかと思います。

生徒の皆さんには、「授業中がんばりなさい。」という話をよくしています。定期考査で点数を取ることも大切ですが、授業中の活躍が大きく評価される時がもうきています。「授業を大切にすること」が、今求められている学力をつけ、それにともない評価が上がっていくことにつながっていくのです。

※ 本校の教科の評価方法の詳細につきましては、例年通り、説明の文書を出す予定です。

〔紙で配布したものは、裏面に2年生の授業中の様子の写真が掲載されています。〕